

センター

令和2年度

事業報告書

(和歌山県国際交流センター管理運営事業)

公益財団法人和歌山県国際交流協会

令和2年度の取組概要

和歌山県国際交流センターは、社会の国際化に即した地域の発展を促進し、県民が国際交流及び国際協力に関する活動を行う拠点とするために平成10年12月に設置された。

平成18年からは、「指定管理者制度」により、当センターの効果的・効率的な管理運営を行っており、令和2年度は第IV期指定管理期間の2年目となった。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染が全国的に拡がる中、緊急事態宣言の発令など当センターの運営にも大きな制限が加えられることとなった。そのような中ではあったが、県民の国際化に関する関心や、在住外国人のニーズなどがますます多様化する時代の変化に迅速に対応し、地域住民や外国人住民により親しまれる施設として活用していただくため、新型コロナウイルスの感染対策を徹底するとともに、オンライン等も積極的に活用しながら下記の各種事業を実施した。

a. センターの維持管理に関する業務

令和2年度の当センターの年間利用者数は、16,651名と令和元年度に比べ、約30%の減少となった。その原因として、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、施設使用を一時的に停止したり、利用者人数を制限したり、またほとんどのイベントをオンラインで開催したことによるものと考えられる。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務

国際交流センターボランティア登録者は112名であり、ボランティアとしての意識をさらに高め、活動をより実のあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。さらにYouTubeで和歌山県国際交流センターチャンネルを開設し、ボランティア登録制度に関する動画を配信した。従来から行っているグローバルセミナー、インターナショナル・カフェ、外国語講座などは、開催方法を工夫しながら実施した。

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

情報収集提供事業として、他の図書館との差別化を図るため国際関係の蔵書をさらに充実した。図書貸出サービス、ホームページのセキュリティ更新などを行った。また、センターホームページの大幅改修を行い、新型コロナ関連の多言語情報を発信するなど情報収集及び発信の充実を図った。

d. 在住外国人等に対する支援業務

相談窓口の運営ではベトナム語を加え、英語、中国語、フィリピン語、日本語と5ヵ国語で相談に対応し、外国人のための「専門家による一日相談会」（田辺市）や日本語学習支援などを行った。

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務

近畿地域国際化協会連絡協議会の研究会や研修に積極的に参加し、災害時多言語支援センターの運営訓練やNHK和歌山放送局と共催で外国人のための防災講座「Let's Study BOSAI」を開催した。

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外移住者子弟（北米の南加や中南米の和歌山県人会子弟）の受入事業を延期せざるを得なかったが、ブラジル、アルゼンチンとオンラインでつなげてリアルタイムで交流し、相互理解と親睦を深めた。

g. 指定管理者自主事業

今年度は夜間中学に焦点をあて、人権セミナー「時代に翻弄されてきた夜間中学の歴史と現在～外国人受け入れの経緯を中心に」を開催した。

a. センターの維持管理に関する業務

○ センター保守管理事業

和歌山県国際交流センターの利用者に様々なサービスを提供するとともに、スタッフ・来館者同士のスムーズなコミュニケーションが図れるような環境づくりに努めた。

（1）令和2年度センター利用者数（月別表）

月	来館者総数	※うちサークル室利用者数
4月	464	13
5月	554	111
6月	1,533	343
7月	1,378	369
8月	1,386	276
9月	1,909	359
10月	2,321	353
11月	1,585	348
12月	1,374	256
1月	1,166	323
2月	1,190	272
3月	1,791	315
合計	16,651	3,338

※サークル室利用者数は
来館者総数に含む

（参考：昨年度の来館者総数 21,722 名、うちサークル室利用者数 4,245 名）

（2）資料閲覧室

利用者が世代別や用途別に快適に利用できるよう、レイアウトを整理し変更した。

資料閲覧室利用に関するデータ等は、「c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

○ 情報収集提供事業」に記載。



レイアウトを変更した資料閲覧室

（3）交流ラウンジ

交流ラウンジでは古くなった雑貨や備品を見直し、整理を行った。多くの観葉植物の中、多様な利用者の方々にリラックスして利用していただけるあたたかい雰囲気づくりに努めた。また、引き続き、無料ドリンク（子ども向けのジュースも含め4種類）の提供、Wi-Fiを整備し、交流ラウンジを団体に開放した。キッズコーナーは、施設を利用する保護者の目が届くよう位置を移し、安全面や機能性を見直した。季節に応じた絵本の入れ替えやデコレーションを行い、親子で安心して施設を利用していただけるように整備した。

（4）ボランティア・団体用サロン

和歌山県内の国際交流団体が定期的なミーティングに利用できるスペースを整備した（各団体が利用できるように12個のロッカーを設置し、現在すべてのロッカーが利用されている）。コピー機などを整備し、当センターボランティアや団体への活動をサポートした。

（5）情報ボード

個人や団体が自己責任のもと、自らの情報を自由に提供できる場所として情報ボードを設置し、「国際交流イベント」、「語学学習のお知らせ」などの情報交換に活用してもらった。また、和歌山県外の外国人支援団体からの情報なども掲示し、在住外国人向けの生活に関する情報を適宜提供した。

（6）清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に2回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

（7）コロナ対策

利用者が安心して利用できるよう、感染対策の実施と呼びかけを徹底した。施設の利用団体とはコロナの感染状況が変化する度にコミュニケーションを取り、状況に応じた利用方法等と呼びかけた。

- ・ 予約時や利用時の感染対策注意喚起・マスク着用での利用・入館時の手指の消毒・部屋の換気
- ・ 席間の距離を指定・飛沫防止パネルの設置

また、多言語表記のコロナ対策ポスターを作成し、外国人の方々を含めたすべての利用者へ呼びかけた。



やさしいにほんご、英語、中国語、ベトナム語の
コロナウイルス感染防止対策のポスター

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務

○ 国際交流センターボランティア登録事業

和歌山県の国際交流活動への関心が高く、ボランティア活動を積極的に行う意志のある方を募集し、登録後は、活動をより実のあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。また、活動に対する思いや目標・意識を高めてもらう機会とするため、全ボランティアを対象とする研修会を実施した。

ボランティア登録者数 112名

内訳：（複数登録者あり）

通訳・翻訳	45名	日本語	29名	ホームステイ及びホームビジット	47名
文化紹介（日本文化・外国文化）	26名	情報収集提供	12名		

◇ ボランティア研修会

日本に住む外国人に情報を伝えるとき、多言語で翻訳・通訳するほかにも、「やさしい日本語」を活用することが必要。やさしい日本語は難しい日本語の言葉をやさしい日本語に変え、相手に配慮したわかりやすい日本語で、災害時などの緊急事態だけでなく普段から使える情報手段としての有効性を考える機会となった。

- (1) 日 時 令和3年2月27日（土） 13:30～15:30
- (2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 花岡 正義（やさしい日本語有志の会 代表）
- (4) テ ー マ 地域で広めよう「やさしい日本語」研修会
- (5) 対 象 者 既登録ボランティア、新規登録希望者
- (6) 参 加 者 25名

○ 通訳ボランティア技術向上講座事業

通訳者であり多岐にわたるボランティア活動経験者で、通訳養成学校等での指導経験豊富な講師を招いた。通訳ボランティア活動に必要な通訳技術の向上を図るとともに、参加者の学習に関する悩みなどを事前に聞き取り、講師から適切なアドバイスをいただくことで日頃の学習に取り組むきっかけとなった。また、今後予定されている通訳ボランティア活動への参加意欲を高める機会となった。

- (1) 日 時 令和3年1月9日（土） 13:30～15:30
- (2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 大西 比佐代（ボランティアガイド団体「奈良 SGG クラブ」会長）
- (4) 対 象 者 和歌山県国際交流センター通訳ボランティア登録者
- (5) 参 加 者 9名

○ NPO協働事業

国際交流や異文化・多文化理解を促進している非営利の団体と協働することで、県内の国際交流や異文化・多文化理解の更なる活性化を図り、また多文化共生の素地をソフト面で構築することを目指すために実施した。

◇「県人会子弟に聞く～ブラジル&アルゼンチンの現在」（共催：わかやま南北アメリカ協会）
〔(再掲) p.9参照〕

◇コロナ禍でも実現可能な事業を考案し、「国際交流センターオリジナルぬりえ」を企画した。

県内NPO団体等との協働計画として、「わかやまぬりえ」で実績をもつ県内の団体「パパチカ」に協力を打診した。

「国際交流センターオリジナルぬりえ」の作成に向け、本年度はぬりえの内容について、具体的な打ち合わせを行った。

- (1) 日 付 令和3年3月4日（木）、3月25日（木）
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 参加者 3名

◇「ドイツ語圏のクリスマス会」 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 日 時 令和2年12月19日（土） 14:30～16:30
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 共 催 ドイツ語文化交流協会
- (4) 内 容 写真や映像にてオーストリア人によるヨーロッパのクリスマスの紹介。
プロ奏者による聖なる楽器トロンボーンの演奏、及びプロ歌手による聖歌の披露。

*新型コロナ感染状況を鑑み、協議した結果11月24日に開催中止と決定した。

◇紀州っ子アドベンチャーフェスタ2020 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 日 時 令和3年1月11日（月） 10:00～16:00
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ他
- (3) 主 催 紀州っ子アドベンチャーフェスタ実行委員会
- (4) 対 象 者 在住外国人を含む県民
- (5) 参加費 無料
- (6) 内 容 **WIXAS** パスポートを作って、五大陸ツアーを実施。
各グループ3名が一組になり、5つの国の衣食住の文化を写真やワークショップを通して体験する。また、それぞれの国の言語も教えてもらう。

○ 移民展・国際理解写真展事業

◇ フォトエッセイ展「母なるまなざし」

JICA 海外協力隊経験のある写真家・映像作家である川崎芳勲氏のフォトエッセイを展示。

トークライブでは、ウガンダで川崎氏が感じた「母性」に迫り、オンライン写真館では、展示作品をご本人が映像内で案内し、作品について語った。展示・トークライブ・オンライン動画を通し、多文化への関心を県民の皆様を高めてもらう機会とした。写真とエッセイに触れることで、コロナ禍で内向きになっている人々へ癒しと前向きさを提供する機会とした。

フォトエッセイ展

- (1) 期 間 令和2年9月27日（日）～11月 1日（日）
期間中 開館日の10：00～18：30
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 内 容 母性に関連する写真18点、エッセイ14点
- (4) 来 場 者 101名



川崎芳勲さんと作品の一部

トークライブ

- (1) 日 時 令和2年9月27日（日）
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
Zoom によるオンライン開催
- (3) 講 師 川崎 芳勲（写真家・映像作家）
- (4) 内 容 JICA 海外協力隊で訪問したウガンダ共和国でのエピソード紹介。またウガンダ共和国で感じた「母性」について語った。
- (5) 参 加 者 20名（オンライン15名、会場5名）



会場参加者とオンライン配信

オンライン写真館

- (1) 期 間 令和2年10月1日（月）～当面公開継続中
期間中 開館日の10：00～18：30
- (2) 場 所 国際交流センターHPにて公開
- (3) 内 容 時世的に来場できない方にも展示を楽しんでいただけるよう WEB 上でも楽しめる動画を公開した。
- (4) アクセス数 346回（3月31日現在）
追加動画の公開：会場で展示を見た方が、写真家に聞いてみたい質問を投函できるコーナーを設け、写真家がそれらに回答する動画を公開した。
アクセス数：119回（3月31日現在）

○ グローバルセミナー事業

在住外国人や外国での生活経験のある方、様々な文化やことばに精通した方々の協力を得て、県民の方々に出会いと交流の場を提供し、世界には多様なことばや文化があることを体験していただいた。また、在住外国人が同じ地域に住む住民であるという意識を持っていただくことを目的にグローバルセミナーを開催した。

◇ 第1回 「シャーリーさんに聞く♪カナダ・中国・ハロウィンの話」

(1) 日 時 令和2年10月3日（土） 13:30～15:00

(2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
Zoomによるオンライン開催

(3) 話 者 シャーリー チャン（和歌山市役所国際交流課 CIR）

(4) 参加者 対面12名、オンライン8名

(5) 内 容 ハロウィンにちなんだコスチュームやワンポイントをつけて参加していただき、カナダ・中国や両国のハロウィンの様子などの紹介を聞いた。グループに分かれて交流し、ハロウィン〇×クイズを楽しんだ。

◇ 第2回 インターナショナル・カフェ 「One World」 on Zoom

県民の方々にくつろいだ雰囲気の中で、県内在住の様々な国の方々と出会い、多様な言葉でコミュニケーションできる場として開催してきた「インターナショナル・カフェ」。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Zoomによるオンライン開催となった。

「One World」をテーマに、12ヵ国・地域の方が民族衣装などを身にまとい、参加した。コロナ禍でも、在住外国人とふれあう機会を作り、相互理解を推進していくことを目的に開催した。

(1) 日 時 令和2年10月18日（日） 13:30～15:30

(2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
Zoomによるオンライン開催

(3) 話 者 デイビッド・ヒルストン（和歌山大学 非常勤講師）

(4) 参加者 47名（12ヵ国・地域）

(5) 参加費 無料

(6) 内 容 第1部 講演「One World～世界の多様性」

第2部 ・トーク交流会（8グループ）

フランス、エジプト、タジキスタン、ベトナム、インドネシア、
中国、台湾、コスタリカ

・コスタリカ民族舞踊

第3部 参加者全員による合唱「We are The World」（英語版）

◇ 第3回 「～途上国に寄付をしてみたら PartII!～」

(1) 日 時 令和2年10月25日（日）13:30～15:30

(2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ

Zoomによるオンライン開催

(3) 講 師 八木 亜紀子（開発教育協会 DEAR）

(4) 参加者 対面6名、オンライン11名

(5) 参加費 無料

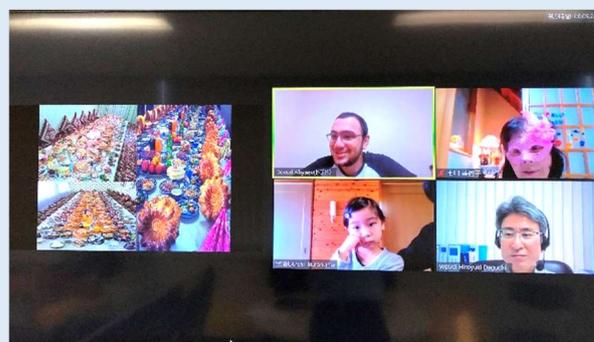
(6) 内 容 国際協力に長く関心を持ち、寄付など何らかの国際協力活動をしている方ほど、世界の貧困、保健衛生、教育などはいつまでも「悪い状態である」と思い込んでいる可能性が高く、この講座では開発教育協会のワークショップを通して世界の実情について、正しい情報をもとに理解していくように促した。

◇ 第4回 「ドイツ語圏のクリスマス会」 [(再掲) p.5 参照]

インターナショナル・カフェ 「One World」 on Zoom



講演 「One World～世界の多様性」



グループによる「トーク交流会」



コスタリカの民族舞踊

◇ 第5回 「県人会子弟に聞く～ブラジル&アルゼンチンの現在」

- (1) 日 時 令和3年2月14日（日） 10:30～11:30（日本時間）
- (2) 開催方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 話 者 ヤスミン マヤ タニグチ（ブラジル和歌山県人会子弟）
下山 美和（アルゼンチン和歌山県人会子弟）
- (4) 参加者 42名
- (5) 参加費 無料
- (6) 内 容 昨年度受け入れしたブラジルとアルゼンチンの子弟に、ブラジル・カンポグランデ市、アルゼンチン・ブエノスアイレス市から Zoom で出演していただき、日本での研修を振り返るとともにブラジル、アルゼンチンの現在についてお話を伺った。12時間の時差を超え、アルゼンチン、ブラジルの県人会長など関係者も多数参加された。



「県人会子弟に聞く～ブラジル&アルゼンチンの現在」
和歌山・ブラジル・アルゼンチン間を Zoom で交流

◇ 第6回 人権セミナー

「時代に翻弄されてきた夜間中学校の歴史と現在～「外国人」受け入れの経緯を中心に」

- (1) 日 時 令和3年2月20日（土） 13:30～15:00
- (2) 開催方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 江口 怜（和歌山信愛大学 助教）
- (4) 参加者 20名
- (5) 参加費 無料
- (6) 内 容 夜間中学は1947年に開設して以来、幾つかの時代を経て、幾度かの大きな変遷を辿って今日に至った。その夜間中学の歴史と現在の状況について、講師が豊富なデータと資料を用いて話した後、「外国人」受け入れの観点から夜間中学の課題や和歌山の現状について参加者の皆さんと一緒に考え、意見交換した。

○センター共催事業

◇ 外国語ランチ事業 「英会話カフェ」

英会話力の向上や異文化理解の機会を求める県民の方々の要望に応え、気軽に英会話を楽しむ機会を提供し、参加者が交流を通して自発的な語学学習活動や国際交流活動に取り組んでもらうことを目指した。

- (1) 日 時 第1ターム 令和2年4月28日～7月7日（予定）
*新型コロナ感染拡大により中止とした。
第2ターム 令和2年9月8日～12月1日
第3ターム 令和3年1月12日～3月23日
13:00～14:10 全21回
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 2名の英会話講師による初級英会話クラスを実施した。講師に参加者の要望を伝え、授業内容・指導方法などに随時修正を加え、よりよいクラス運営を目指した。コロナ禍の中、ソーシャルディスタンス、消毒、換気などに気を配り、飲食を伴う交流会は中止し、スモールトーク会のみ実施した。クラス毎にボランティアスタッフを依頼し、参加者によるクラス運営への積極的な参加を実現した。
- (4) 講 師 佐藤 真理、Alexandre Hashimoto
- (5) 受 講 者 第2ターム 18名 第3ターム 17名

◇ やさしいドイツ語文化理解講座

県内に在住又は勤務する方を対象に、ドイツの言葉や文化を理解してもらうために、国際交流センターボランティアの自主企画運営により実施した。

- (1) 日 時 令和2年6月6日（土）～令和3年2月20日（土）
16:50～18:20 全32回
*新型コロナ感染拡大により延期して開催した。
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 平易で使用頻度が高いドイツ語の日常会話表現と、食文化・音楽などのドイツ語圏文化を学ぶ講座を実施した。
- (4) 対 象 者 ドイツ語やドイツ文化に興味のある県民
- (5) 講 師 田島 昭洋（大阪市立大学ドイツ語講師）、ドイツ語母語話者
- (6) 受 講 者 15名
- (7) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 田島 昭洋

◇ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。

「もっと日本語クラス」

- (1) 日 時 令和2年4月5日（日）～令和3年3月28日（日）
10:30～12:00 全19回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 中級レベルの日本語文法や会話表現
- (4) 講 師 和歌山にほんごの会 NAGOMI
- (5) 受講者数 延べ人数 約290名

「日本語 おはようクラス」

- (1) 日 時 令和2年6月5日（金）～令和3年3月13日（金）
10:30～12:00 全31回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 入門・初級レベルの表現から中級レベルの文法まで
- (4) 講 師 にほんご YHT の会
- (5) 受講者数 延べ人数 約183名

「わがっこ」（和歌山から外国につながるこどもたち）

- (1) 日 時 令和2年4月11日（土）～令和3年3月27日（土）
13:00～16:00 全29回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 こどもの日本語教育および学習サポート
- (4) 講 師 八巻 由実子
- (5) 受講者数 延べ人数 約88名

「いっしょににほんご」

- (1) 日 時 令和2年7月12日（日）～令和3年3月28日（日）
13:00～16:00 全25回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 入門～中級、少人数レッスン
- (4) 講 師 中野 豊子
- (5) 受講者数 延べ人数 約117名

企業連携型日本語教室開催

- (1) 日 時 令和2年5月16日（土）～令和3年3月21日 全44回
- (2) 実施方法 スカイプによるオンライン開催
- (3) 講 師 和歌山にほんごの会 NAGOMI 青木 優子、根来 祐子、前田 あゆみ
- (4) 受講者数 延べ人数 約132名（ベトナム人技能実習生）

◇ 日本語学習支援団体等とのオンライン情報交換会

県内の地域日本語学習支援団体等と連携を深め、日本語学習を希望する外国人へより効果的で充実した学習の場の提供につなげるとともに、災害時等の緊急事態が発生した際、外国人安否確認をはじめ必要な情報をより迅速に届けるためのネットワーク構築を目的に情報交換を行った。

- (1) 日 時 令和3年3月18日（木）13:30～15:30
- (2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 出席団体 にほんごHYTの会、和歌山にほんごの会 NAGOMI、和歌山市国際交流課、田辺市教育委員会生涯学習課、きのくに学びの教室（和歌山県教育庁人権教育推進課）、多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会、和歌山大学（教授 長友文子、助教 松下恵子）
- (4) 内 容 日本語学習支援活動紹介および情報交換し、災害時における外国人の安否確認及び情報提供等について意見交換を行った。

◇ 日本語ボランティア研修会

新型コロナウイルス感染症拡大における状況下において、対面学習だけでは学習継続が難しくなる中、安心して学習を続けられるオンラインでの学習の普及のため、Zoomの基本操作を学んでいただき、オンラインでの効果的な教え方を学んでいただく研修会を行った。

- (1) 日 時 令和3年1月30日（土） 入門編 13:00～15:00（90分）
令和3年2月 2日（火） 入門編 10:30～12:00（90分）
令和3年2月 6日（土） 応用編 13:30～15:30（120分）
- (2) 場 所 入門編 国際交流センター 交流ラウンジ
応用編 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 入門編 下町 秀之（公益財団法人 和歌山県国際交流協会）
応用編 佐藤 綾子（株式会社 インカレックス 取締役）
- (4) 内 容 入門編では、Zoom 初心者の方対象に各自 PC 等を持参していただき、Zoomのインストール方法や基本操作を学んでいただいた。
応用編では、オンラインによる効果的な指導方法等を学んでいただいた。
- (5) 参加者 入門編 11名
応用編 13名

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

○ 情報収集提供事業

資料閲覧室においては、外国人向けの図書を多数所蔵し、当センター独自の強みを取りまとめ、他の図書館との差別化を図った。また、異文化理解や国際理解等に関係する多彩な図書を取り揃え、分類ごとにわかりやすく配置した。定期的に内容を入れ替えたメインの飾り棚は、来館者がすぐに手にとっていただきやすい場所に配置した。さらに情報の古くなった図書類の選定を数回に渡って行い、蔵書の整理を行った。

センターホームページでは、外国人の生活関連情報など多くの情報を発信した。また引き続きフェイスブックを活用し、イベント等のお知らせや実施後の写真等を掲載した。

デジタルサイネージを購入し、電子看板として館内に配置し、センターのタイムリーな情報を発信することに活用した。

◇ 蔵書数 7,375冊

- (1) 蔵書構成：日本語・外国語図書（外国語小説、日本の小説や漫画の外国語版、日本語学習、外国語学習参考書、和歌山県の紹介、外国文化や海外観光地の紹介、外国語辞書など）
- (2) 整備及び管理方法：日本十進法等により分類

◇ 刊行物

- (1) 広 報 誌 名 和歌山県国際交流センターNEWS（Vol.47～Vol.50）
- (2) 発行時期・部数 7月（Vol.47）、12月（Vol.48）、2月（Vol.49）、3月（Vol.50）
47号、48号 各2,500部 49号、50号 各2,000部
- (3) 内 容 センターイベント紹介、活動紹介
- (4) 配 布 先 賛助会員、自治体、地域国際化協会、各市町村、教育委員会、公共施設、教育機関など

The image displays a collection of informational materials. On the left, there are several copies of the 'センターNEWS' (Center News) newsletters, which feature maps and photographs of local events. On the right, there are three flowcharts designed to assist non-Japanese speakers in understanding COVID-19 protocols. The top flowchart is in Tagalog, the middle one in English, and the bottom one in Japanese. Each flowchart starts with a question about whether the user has a regular hospital and whether they are experiencing symptoms like fever, cough, or cold. Depending on the answers, the flowcharts provide instructions on how to contact the hospital, whether by phone or in person, and where to go for a medical test. Contact information for the International Exchange Center is provided at the bottom of each flowchart.

英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語の5カ国語で情報提供

◇ 県民及び在住外国人からの寄贈

県民や在住外国人から図書を寄贈してもらい、リサイクル図書として活用した。

寄贈図書数 36冊 新規購入図書数 83冊

◇ 図書貸出サービス登録者数 894名（うち日本人494名／在住外国人367名）

- ・貸出条件対象者 小学生以上であって県内在住の方、または県内に通勤、通学している方
- ・貸出期間 3週間
- ・貸出冊数 10冊まで
- ・貸出利用者 159件
- ・総貸出冊数 481冊



多彩な図書



「星火燎原文庫」（中国図書）



貴重なベトナム語図書

◇ ホームページ等

ホームページについては、セキュリティ面を最大限に配慮しつつ、情報発信が迅速に行える CMS により、スピーディな更新を行った。言語はこれまでと同じ4言語（日本語・英語・中国語・フィリピン語）に対応しており、新たに外国人生活相情報が項目ごとに確認できる「外国人生活関連情報」のサイトにより、項目ごとに関係する団体等の URL を掲載した。また、日本語学習希望者が県内で日本語学習を提供している団体・個人等の情報を一度に確認することができる和歌山県日本語学習支援情報サイト「わかやまにほんごのまど」に団体等の情報を掲載した。

- ・協会ホームページ閲覧者数 1,114件（令和2年4月～令和3年3月31日）
- ・センターホームページ閲覧者数 18,389件（令和2年4月～令和3年3月31日）
- 合計 19,503件

◇ デジタルサイネージの設置と活用

本年度新たに取り入れたデジタルサイネージでは、センターに関連する動画やチラシ・機関誌センターNewsの動画版等を公開した。施設入口付近に設置し、通りがかりの方々にも興味を持ってもらい、来館者数の増加につなげた。



デジタルサイネージ

d. 在住外国人等に対する支援業務

○ 相談窓口の運営

外国人のための相談窓口を設置し、在住外国人が生活する上で抱える様々な相談に、外国人生活相談員等が英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

相談件数：821件

内 容：出入国関係164件、情報140件、教育106件、医療・社会福祉88件、
労働・就職75件、婚姻・国籍55件、通訳・翻訳50件、税金22件、住まい11件、
観光3件、留学2件、その他105件

当事者国籍・地域別件数

フィリピン	368
日本	125
中華人民共和国	117
ベトナム	78
インド	33
台湾	21
インドネシア	12
タイ	10
アメリカ合衆国	9
ブラジル	8
フランス	6
ドイツ	5
香港、ロシア、 コンゴ民主共和国	各2
アイスランド、コロンビア、 ジャマイカ、モンゴル、 ネパール、ニュージーランド、 ニカラグア、ペルー ルーマニア、スペイン シリア、イギリス、メキシコ	各1
不明	10

内容別相談件数

出入国関係	164
情報	140
教育	106
医療・社会福祉	88
労働・就職	75
婚姻・国籍	55
通訳・翻訳	50
税金	22
住まい	11
観光	3
留学	2
その他	105

対応内容別件数

情報提供	385
相談対応	343
通訳・翻訳	44
専門窓口の紹介	24
人材紹介	12
専門窓口への通訳	1
その他	12

○ 外国人のための「専門家による一日相談会」

在住外国人支援の一環として、通常的生活相談の枠を超えた専門的な相談に多言語で対応するため、田辺市において専門家及び通訳者の協力のもと、「専門家による一日相談会」を実施した。

- (1) 日 時 令和3年3月7日（日） 13:00～17:00
- (2) 場 所 田辺市民総合センター2階 交流ホール
- (3) 共 催 田辺市、田辺市教育委員会、田辺市国際交流センター
- (4) 相談内容 法律、在留資格・帰化、労働・社会保険・年金、教育、女性、
国などの行政、市政・生活一般
- (5) 対応言語 英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語
- (6) 相談件数 20件
- (7) 相談者数 15名
- (8) 内容別件数

法律	2件	労働・社会保険・年金	2件
在留資格・帰化	5件	教育	3件
女性	1件	国などの行政	1件
市政・生活一般	6件		
- (9) 国籍(地域)別件数 ベトナム5件、アメリカ4件、フィリピン4件、中国3件、台湾2件、
アイルランド1件、イギリス1件



専門家によるアドバイス



5カ国語の受付票

○ コミュニケーション支援事業

在住外国人へ日本語学習を支援するボランティアのサポートを行い、共催で日本語クラスを実施した。さらに研修会などを通して、ボランティアの支援力及び技術力を強化し、日本語教育の関係者や関係団体との連携を深めた。

詳細は P.11、P.12 参照

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務

○ 在住外国人等支援防災対策事業

「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」

近畿圏内において発生する大規模災害に対し、相互に協力し、外国人に対する災害応急対策及び災害予防対策の支援を円滑に推し進める体制づくりを行うことを目的に、災害時多言語支援センターの設置、運営訓練を実施するとともに、他協会が実施する研修会に参加した。

◇「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」による協議

- (1) 日 時 令和2年6月30日（木）～令和3年3月16日（火） 全4回
- (2) 場 所 大阪府国際交流財団相談室3
Zoomによるオンライン開催
- (3) 内 容 年間事業計画・収支予算、総会、副会長研修、共催研修、災害時の緊急連絡体制・情報共有の方法、その他情報交換
- (4) 参加団体 近畿地域国際化協会連絡協議会会員（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市）、奈良県（準構成員）、堺市（オブザーバー）

◇ 近畿地域国際化協会連絡協議会 総会

- (1) 日 時 令和2年5月18日（月）
- (2) 方 法 書面決議
- (3) 内 容 役員の変更、令和元年度事業報告及び決算、令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）等
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇災害時多言語支援センターの設置・運営訓練

- (1) 日 時 令和2年8月17日（月）10:30～16:45
- (2) 場 所 和歌山県ビッグ愛、大ホール・和歌山県国際交流センター・御坊市
- (3) 内 容 講演：テーマ「災害多言語支援センター環境整備の基本の基本」
訓練：①災害時多言語支援センター設置・運営訓練
講師：土井 佳彦（クレア災害時外国人支援アドバイザー）
松本 義弘（クレア災害時外国人支援アドバイザー）
新居 みどり（NPO 法人国際活動市民中心コーディネーター）
参加者：62名（近畿地域国際化協会連絡協議会メンバー・和歌山県内の市町職員ほか）

②避難所巡回訓練

遠隔情報システムを活用して通訳支援を行った。

- (4) 主 催 公益財団法人和歌山県国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇外国人のための防災講座「Let's Study BOSAI」実施

地震や津波、台風などの災害発生に備え、在住外国人等が自らの防災に関する知識と意識を高め、災害時に適切な行動を取れるようにすることを目的に、地震等災害についての基礎知識をやさしく学び、グループで様々なミッションに挑戦する実践型イベントを実施した。

- (1) 日 時 令和2年11月15日（日） 13:00～15:30
- (2) 場 所 ビッグ愛9F会議室B、C及び消費生活センター研修室、
国際交流センター交流ラウンジ
- (3) 主 催 NHK和歌山放送局、和歌山県国際交流センター
- (4) 協 力 和歌山地方気象台、日本防災士会和歌山県支部、
和歌山にほんごの会NAGOMI
- (5) 参加者数 外国人26名（5ヶ国）、日本語サポーター6名
- (6) 内 容 地震や津波、台風などの被害について基礎知識の学び、災害時に避難所で支給される非常食の体験、身一つで避難した場合の防寒対策、簡易トイレの作成、担架作りなど様々なミッションに挑戦する実践型イベント等

「Let's Study BOSAI」の様子



地震・台風などの災害について（座学）



ラップと新聞紙で簡易防寒着を作る



担架を作り、怪我した人を運ぶ



新聞紙とゴミ袋などで簡易トイレを作る

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務

○ 海外移住者子弟受入事業

海外に移住した県人の子弟を県内の一般家庭に受け入れ、ホームステイを通じてお互いの国の文化や風俗を理解し、移住先国と自らのルーツである和歌山、日本との相互理解を深める。

◇ 南加和歌山県人会子弟受入事業 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 受入期間 令和2年7月初旬～中旬
- (2) 人数 2名
- (3) 内容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、グローバルセミナーのゲストスピーカー、茶道体験、日米協会主催昼食会
- (4) 協力団体 和歌山日米協会、和歌山大学研究グローバル化推進機構他

※世界各国で渡航や入国制限の措置がとられていたことから、5月11日実施中止を決定した。

代替事業

グローバルセミナー事業 「シャーリーさんに聞く♪カナダ・中国・ハロウィンの話」を実施した。
詳細は p.7 参照

◇ 中南米和歌山県人会子弟受入事業 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 受入期間 令和3年1月下旬～2月中旬
- (2) 人数 在ブラジル和歌山県人会 1名
在パラグアイ和歌山県人会 1名
- (3) 内容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、高校生や大学生との交流、親戚との交流、グローバルセミナー、日本文化体験など
- (4) 協力団体 わかやま南北アメリカ協会、中南米交流協会、和歌山大学研究グローバル化推進機構

※5月より、メールにてブラジル県人会及びパラグアイ県人会の会長と受入について協議を開始した。ブラジル側は子弟の人選が固まり、推薦できる段階にあった。しかし、その後世界的に感染状況が日々深刻になったため、協力団体も含め協議した結果、7月に受入の中止を決定した。

代替事業

グローバルセミナー事業 「県人会子弟に聞く～ブラジル&アルゼンチンの現在」を実施した。
詳細は p.9 参照

g. 指定管理者自主事業

○ 人権セミナー（グローバルセミナー）（再掲）

「時代に翻弄されてきた夜間中学校の歴史と現在～外国人受け入れの経緯を中心に」

(1) 日 時 令和3年2月20日（土） 13:30～15:00

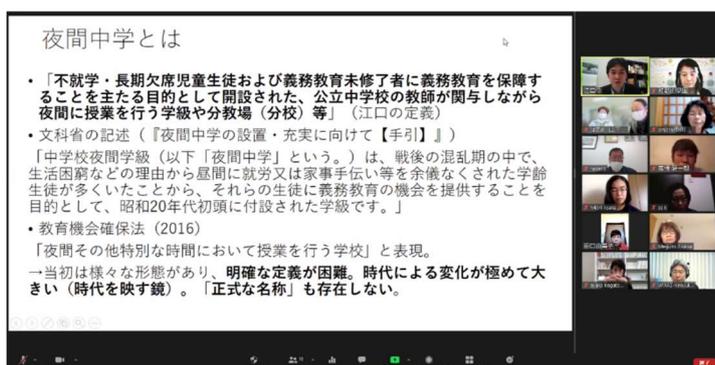
(2) 開催方法 Zoomによるオンライン開催

(3) 講 師 和歌山信愛大学 助教 江口 怜

(4) 参加者 20名

(5) 参加費 無料

(6) 内 容 夜間中学は1947年に開設して以来、幾つかの時代を経て、幾度かの大きな変遷を辿って今日に至った。その夜間中学の歴史と現在の状況について、講師が豊富なデータと資料を用いて話した後、「外国人」受け入れの観点から夜間中学の課題や和歌山の現状について参加者の皆さんと一緒に考え、意見交換した。



夜間中学の歴史と現在について



講師：江口 怜

[文中：敬称略]